

●京田辺市民文化祭 里山の会 34人のスタッフで大成功 今年の里山の会の模擬店会場は体育館の東側で池に近い場所でもかなり奥まった位置でした。昨年は奥の最北端でしたが、少し戻りました。電源の確保のため体育館東側とかなり限定されてきた。今年の場所決定は、公平さを確保するとして抽選の結果でした。これまで20回近くの連続出店だがほとんど同一場所になっています。体育館正面に回ったことはありません、出展料金テント代金は格差はなく一律料金です。場所決定方法が変更となる場合は慎重な配慮が必要ですね。

模擬店 自分で作る綿菓子 子どもたちの参加型を取り入れ、手ほどきを教えてできるだけ自分で作ります。買うものではなくて作って食べ、与えられるものから作る体験を取り入れているので大変喜んでくれる人気の取組みです。

誰でも作れる松かさツリー 京田辺市の木とされているのがナンキンハゼ、秋には白い実が沢山つきます。この実を拾い集めて着色して松ぼっくりにボンドでくっつけ世界でただ一つの松かさツリーができます。各種の色を使って出来上がっていきます。リピーターも生まれ、3年目という参加者もありました。親子が一緒に作り上げるのも、また孫へのお土産という方もあります。ほほえましい姿が見える人気商品です。里山の会の専売特許の取組みの一つです。

無農薬で栽培新鮮野菜コーナー 10年前に里山農園開墾が始まって以来、栽培品目は変わりますが、毎年出店を継続しています。今年は農園のイノシシの侵入防止柵が壊され、サツマイモ畑が全滅、大きな被害が発生。こうした外的な影響も重なり野菜販売は最低出荷量となり、期待されていた皆さんに十分こたえられなかったのは残念至極でした。

やましろ一番の鹿背山の富有柿 文化祭への出店では最初から鹿背山の柿の販売を行ってきていました。木津川市中央部に住宅開発がされるまでは里山の会員の手で柿栽培を行っていました。鹿背山に、実りの秋には風景も風も全部柿色に染まる柿山による里山風景が出現します。柿狩りをして弁当を食べる時が本当に素晴らしい楽しみでした。此処が無くなって里山の会の魅力の一つを失いました。美味しく大量の柿の確保は困難でリピーターの皆さんの期待に応えるべく苦勞をしています。模擬店で最も人気のある商品が鹿背山の甘さ抜群の富有柿です。毎年完売する里山の会自慢の商品です。ところが近頃の客層の変化なのか少しずつ柿離れが見られるようです。とくに若者には人気が無くなってきています。

出展にあたって里山の会が心がけていることは作品自慢ではなく調査研究や成果発表の模擬店や展示発表です。文化は時代の足音が聞こえるものであるという考えから、里山の会は調査研究と現地調査の資料と記録を中心にした成果を伝えることに重点を置いて文化祭を取り組んできました。今年のポイントは『心』『命』に集約できたのではないかと思います。ご覧いただいた皆様のご感想をお寄せいただければありがたいです。週刊ニュースで作品の紹介を計画しています。

●会誌43号発行 発送 170ページ 11月2日 42号までは発行期日を11月の文化祭までに発行をとこの原則を維持してきました。ところが国交省からの木津川の希少種植物の生育調査業務の受注をすることになり、その対応や正規の大きな取組みである中聖牛設置が重複して、事務処理や現地作業などが重なって、発行期日を守れず、11月2日の印刷製本となりました。会員の皆様には発行が遅れてしまって申し訳なく思っています。いい取組みがたくさんあります。43号は今年前半で最も長期間の取組みとなった竹蛇籠の製作完成の喜びを表現することになりました。

●木津川希少種植物調査業務 除草作業着手 11月6日 6名が参加 2017年度で最大の取組みとなるであろう希少種植物調査業務契約では10月に着手とされているが、契約後の事務処理の届け出が進められずなかなか進展せずに困っているところです。事務処理が遅れるとモヒカン刈り状態が続くのが心配になり

ます。京田辺市民文化祭が終了した 11 月 6 日には八幡市域のイヌナズナの生育地の除草作業を実施。ここでは除草作業の主力になるハンマーモアの運転講習実施を行って、草刈り業務の機械の扱いを体験、約 1 時間の学習講習会を行いました。基本は机上の学習でなく、草刈りの現地体験を中心に実践を主体に学びました。エンジンのスタートとストップ体験からです。エンジンの始動、チョークの役割、クラッチや変則レバー、方向転換 バック走行操作、安全ボタンによる緊急時のエンジンストップ、そして最後に草刈り装置についての操作です。なかなか名称と役割の一致が出来なくて、戸惑うこともあって自由に操作できるかは今後ハンマーモアに積極的に慣れ親しんでいただくということが一番近道であることを学びました。平坦地での操作はいたって簡単です。恐れずに挑戦してみてください。

今回からは、業務として作業を受注できましたので、ボランティアという観点から業務としての位置づけた構えで作業をとらえなければなりません。その心構えの第一歩が作業服装(ユニホーム)にあるのではないかと考えます。急斜面での移動にはスパイク式の靴が必須と思われれます。また繁茂する斜面の堤防では滑り防止がしっかりした足元の確保が必須と考えられます。堤防の斜面での作業には絶対に必要な道具です。これで足元の安全が確保されてこそ自分の姿勢が保持されて初めて作業に集中できます。次にヘルメットの装着です。頭の防衛は最低限の道具であり、気のゆるみをしっかり緊張させてくれるものです。顎ヒモの正確な装着は安全作業の気持ちを引き締めしてくれる大切な道具です。除草作業でのゴーグルはごみやほこりから視力防護には欠かせないものです。けがが発生してからは手遅れとなります。軽く見ないでしっかり装着しましょう。特に高齢者は自分の身の回りに何があるのかについてわかっているようでわかっていないものです。必ず装着をお願いします。そして肩掛け刈り払い機の場合はエンジン音が大きく声などが聞こえにくいので、作業中は 5m 以内には絶対近寄らないことが秘訣、ここは絶対に守りあってください。そして大きなゼスチャーで伝えましょう。必要な場合は呼子を使ってください。事故防止は作業員みんなの協力が必要です。

これからの除草作業日程 (予定…しばしば変更有り 天候次第)

11 月 13 日(月)9 時 30 分 14 日(火) 事務所 9 時 30 分 15 日(水) 事務所 13 時 00 分

16 日(木) 13 時事務所 17 日(金)事務所 9 時 30 分 18 日(土) 事務所 13 時 30 分

20 日(月) 事務所 9 時 30 分 21 日(火) 9 時 30 分事務所 23 日(木)事務所 30 分

24 日(金)9 時 30 分 25 日(土)9 時 30 分 可能な限り 11 月に除草作業を終了と考えています

●中聖牛の設置について いよいよ 11 日組立開始 近畿地方…木津川では最初 歴史的な事業

先週号でもお知らせしましたように中聖牛の設置を 11 月 11 日 12 日に予定していましたが、骨組みの組み立てだけになります。静岡県島田市の原小組さんによって 3 基を組みあげます。資材の丸太をしっかり組み合わせることで、水を制御する最も大切な骨格になるところです。固定が緩むといざというときに効果が減少してしまいます。近頃こうした人力で固定する技や方法が伝承されなくなってきています。竹蛇籠の組み方に加えて聖牛つくりでしっかり学んでいただきたいと思います。こうした技術を目にする機会も、体験する場面も無くなっているので、貴重なチャンスです、ぜひお越しください。

●12 月 2 日(土) 3 日(日)に**玉石入れ 3 日午後竣工を喜ぶ会** 多数のご参加を 台風 21 号による木津川水位上昇によって流れ橋などが流れました。橋の下流部では洗堀が進み茶畑まで 1m に水が迫りました。こうした復旧に業者が不足し、聖牛の設置が延期になりました。復旧工事は 12 月にはめどがつくとのことで 2・3 個に玉石入れを行って竣工式を予定しました。

●11 月 9 日 **木津川希少種生育調査** 実施 13 時より 25 カ所 本格的に木津川希少種の生育調査を行い保全対策にも取り組みます。その第一歩が 9 日に実施する保全地域の生育調査です。丁寧に観察調査いたします。これか毎月実行の予定です。

●今後、展示物の紹介をします。ご期待ください。